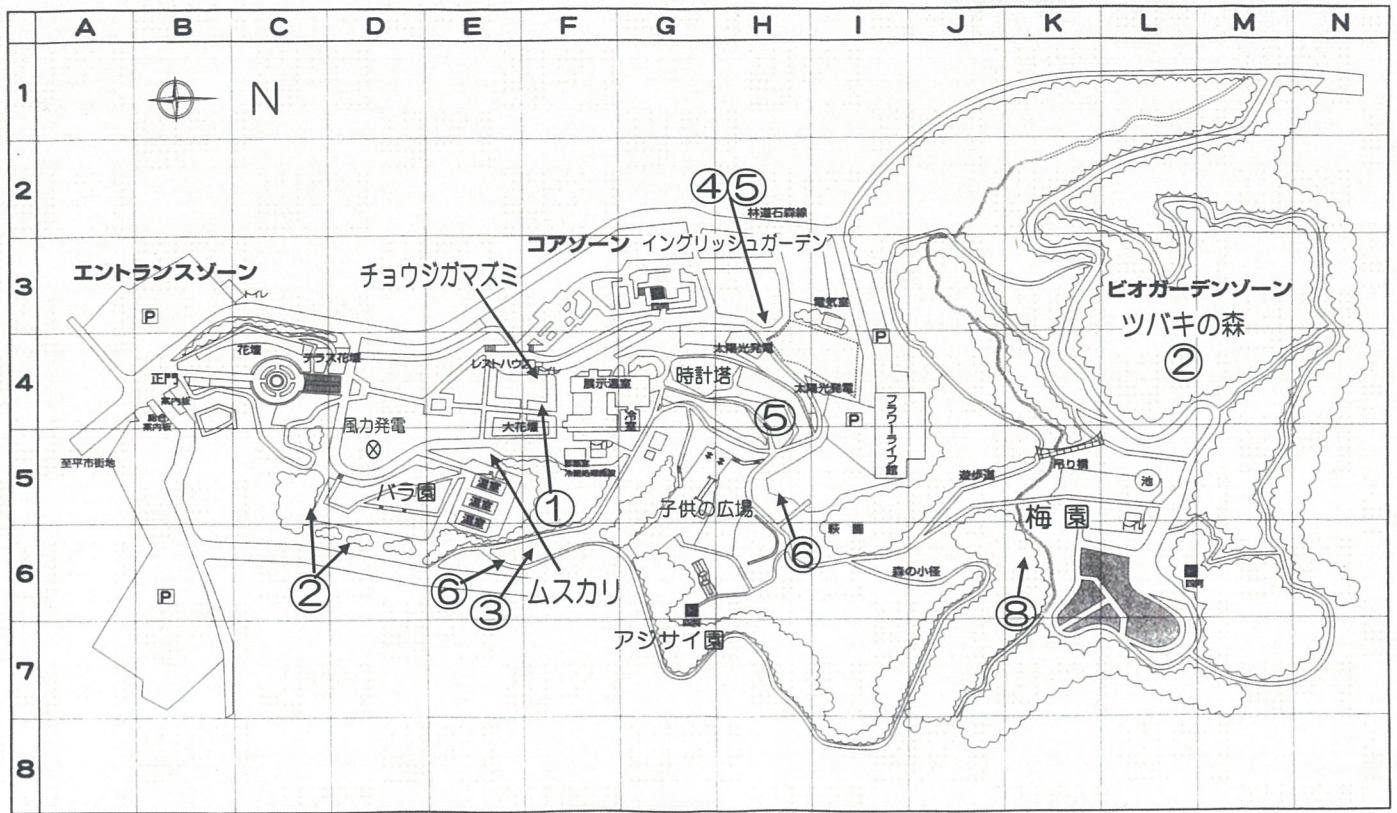


フラワーセンター【3月の花】

2021年度 3月26日更新

※園内の植物の盗難が相次いでいます 園内の植物は絶対にとらないでください。



①パンジー（大花壇）



スミレ科 一年草 原産：ヨーロッパ
パンジーは数千とも言われるたくさんの品種があり、花の大きさ・色・咲き方をはじめとして途方もないバラエティーがあります。パンジーの名前はフランス語のパンセ（物思い）に由来し、花の咲いている姿が物思いにふけているように見えるところから名付けられました。

②ツバキ

（バラ園東、南側・ツバキの森他）



ツバキ科 常緑中低木 原産：日本
ツバキは早春の花の少ない時期に咲く貴重な花です。古くから園芸品種が存在しており、現在は300を超えていると言われています。現在でも茶花や生け垣に利用され、日本では最もなじみの深い植物のひとつです。

③ヒメリュウキンカ

（育成温室東側法面）



キンポウゲ科 多年草 原産：ヨーロッパ
漢字を当てると「姫立金花」、山野の湿った草原や川沿いの林床など湿り気のある場所などに自生します。葉は暗緑色のハート形、春になると花茎を伸ばして表面に光沢のある3~4cmの黄色い花を次々と咲かせ、長いものでは1ヶ月ほど花を楽しむことができます。

④サンシュユ

（イングリッシュガーデン北側入口付近の園路沿い）



ミズキ科 落葉高木 原産：中国・朝鮮半島
サンシュユは葉が開くより先に開花するため、株全体が鮮やかな黄色に包まれます。花は黄色い小花が30個ほど集まり、直径2~3cmほどの小さな花房（散形花序）をつかって開花します。秋には紅葉とともにサンゴのようにつややかな赤い実が楽しめます。

⑤クリスマスローズ

（イングリッシュガーデン北側入口付近他）



キンポウゲ科 常緑多年草 原産：ヨーロッパ
花の少ない1~3月頃に可憐な花を付けるクリスマスローズは、丈夫で育てやすく、開花期間の長い宿根草です。花のように見える部分は萼（がく）という器官で、本当の花は真ん中に小さく集まっています。

⑥トサミズキ

（フラワーライフ館南側ユーカリの木付近他）



マンサク科 落葉低木 原産：四国
トサミズキは葉が出るよりも先に、3月下旬から4月に、5~7個の丸みのある黄白色の小花が連なり花序になって下垂します。トサミズキは四国地方を原産としていますが、特に名前が示すように高知県内の山地の石灰岩地域に多く生育しています。

⑦スイセン（園内各所）



ヒガンバナ科 多年草 原産：地中海地方
イベリア半島を中心に、イギリス、ヨーロッパ中部、北アフリカを含む地中海沿岸地域に25~30種が自生します。房咲きスイセンをはじめとした一部の品種はギリシャから中国にまで分布し、日本にも野生した状態で生育しています。

⑧修善寺寒桜



バラ科 落葉小高木
伊豆修善寺の修善寺境内に原木がある桜で、カンヒザクラとオオシマザクラの交雑種と言われます。花が大きく花色の桃色も濃いので目立ちます。